

平成 16 年度 e-エアポート実証実験

1. 目的

e-Japan 戦略の施策の一つである「e-エアポート」構想を実現するため、IT 技術を活用した各種実証実験を通じ、空港における旅客の利便性及び安全性の向上を目指す。個別の取り組みについては、以下のとおり。

空港セキュリティの向上及び旅客手続きの簡略化（e-チェックイン）

生体認証技術の活用により、国際空港における安全かつ迅速な搭乗手続きの実現性を検証する。

音声認識観光情報サービスを搭載する携帯情報端末を用いた外国人旅行者への行動支援（e-ナビ）

訪日外国人旅行者が自由にかつ円滑に我が国の魅力を堪能できる環境を整備することを目標として、携帯情報端末を利用した訪日外国人旅行者に対する行動支援サービスの実現性を検証する。

2. 実証実験の概要

(1) 実験期間

e-チェックイン 平成 17 年 2 月 7 日～平成 17 年 3 月 25 日

e-ナビ 平成 17 年 2 月 1 日～平成 17 年 3 月 25 日

(2) 実験場所又は実験端末貸出・返却場所

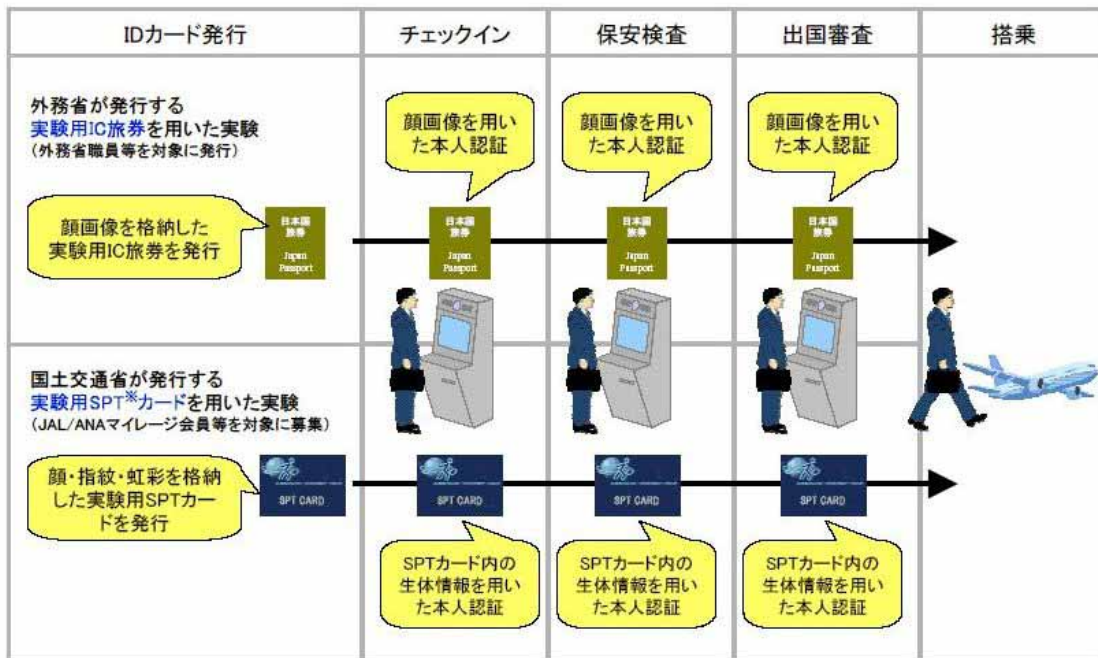
成田国際空港

(3) 実験内容

e-チェックイン

外交・公用旅券所持者を対象に外務省から顔画像の情報を格納した実験用 IC 旅券が発行され、また、事前に募集した一般の実験参加者には顔画像、指紋、虹彩の情報を格納した実験用 SPT カードを発行した。

これらの実験参加者に対し、国際線の航空便を利用する際のチェックイン、保安検査、出国審査の各手続きにおいて、優先レーンを用意して実験用 IC 旅券又は実験用 SPT カードに記録された生体情報を用いた本人認証を行い、安全かつ迅速な搭乗手続きの可能性などについて調査を実施した。



※ Simplifying Passenger Travel(国際空港における旅客手続きをITを用いて簡略化する取り組み)

e-ナビ

事前に募集した訪日外国人旅客に音声通訳（日・英）、観光コース紹介（英・中・韓）、インターネット接続等の各種サービスを搭載した携帯情報端末を貸し出し、日本滞在中に実際に利用してもらった上でアンケート調査を実施した。



3. 実験結果

e-チェックイン

生体情報を用いた本人認証の時間は短く十分に実用化レベルにあり、チェックイン、保安検査における手続きの待ち時間短縮が可能であることが確認された。また、旅客サービス面ではおおむね本実験に対して期待及び関心の高さが伺える結果となったが、一方、技術面では、一部の生体認証については、ガイダンスがない場合に認証失敗率が上がる傾向が見られ、今後、最適な機器の運用方法、設置方法の改良が必要であること等の課題が明らかとなった。

e-ナビ

本実験のコンセプトについては高い評価を受け、携帯情報端末のサイズ、操作性についても満足度が高かった。「いつでも・どこでも」持ち歩くことのできる携帯情報端末は訪日外国人の行動支援ツールとして有効との評価が得られた。また、サービス面ではインターネット等のシンプルなサービスが好まれ、利用頻度も高い結果となった。主な課題としては、データ通信速度等のレスポンス速度や音声認識精度等の技術的な性能向上が挙げられる。